

阿部氏屋敷と日観寺

熊澤良嗣 加筆

瀬部小学校の西に、校地に食い込んだような一角（墓地）があって十数個の石碑が立っております。

この墓地と瀬部小学校の校地の大部分は、以前あった日観寺の跡地です。そのなごりが今も石碑（墓標 阿部氏代々及び日観寺住職の墓）として残っているわけです。日観寺は明治十三年八月十九日に廃寺となり、西春日井郡川中村大字中切石原八百二番地（現在の名古屋市北区中切）へ移転し現存しています。

日観寺は昔瀬部に居住した阿部氏の寺であり、阿部氏の没落と共に存立できなくなり廃寺になりました。

阿部氏について～

阿部氏は徳川時代尾張藩の重臣で瀬部などを中心に四千石を領しており、その下屋敷が瀬部字富士下（中島町内）にありました。

阿部氏の祖先阿部伊豫守正勝は徳川家康の三河譜代衆の一人として、天正十八年（1590）伊豆の国市原郷に五千石を領しました。この正勝に三人の男子があり、長男の系統は備後福山^{びんご}で十一万石の大名となり、華族制度下の戦前までは阿部伯爵家として存続していました。次男の系統は磐城の国白河から棚倉^{たなぐら}十万石の大名となり、やはり戦前までは阿部子爵家として存続していました。

瀬部に関係のある阿部家は正勝の三男の系統であり、尾張藩の重臣（執事）であり、瀬部^{しも}に下屋敷をもっていました。阿部氏が瀬部に下屋敷を置いたのは元禄十二年（1699）であり、従来から知行地であったここに家族を住まわせることになったので、これ以降は瀬部を在所と呼ぶようになりました。また寛永六年（1709）には阿部家の菩提所を現

在瀬部小学校のあるところに作りました。

阿部氏の禄高は世代により多少の異動はありましたが、大体四千石で明治維新まで続きました。しかし廃藩置県とともに阿部氏は富士下の下屋敷を廃して瀬部を去り、その子孫は名古屋に在住とのことです。

なお、瀬部観音寺の表門は阿部家の門を移築したものとの言い伝えがあります。

日観寺について～

日観寺は専ら阿部氏個人の菩提寺であったため、阿部氏と共に栄え阿部氏と共に瀬部の地を去りました。前記のように寛永六年に寺を建て、祖先（阿部正勝の三男・阿部正興、法名は立正院道助日観居士）の法名をとって日観寺と名づけました。

この日観寺は晴雲山と号し、敷地は四段九畝あったと記されております。日蓮宗京都妙満寺の末寺です。阿部氏は浪人熊澤某氏より敷地となる地を乾金（^{ほんじきん}乾字金）貳拾両で買い取り、更に西方七畝八歩を買い足しました。

寛永七年（1630）本堂を建立し入仏式をおこないました。知多郡篠島にあった曹洞宗松寿寺の末寺が廃寺になっていたのを引寺にし、日蓮宗に改め、名古屋寺町の常德寺の隠居僧侶日念を招請して開山しました。従来阿部氏は父祖代々名古屋の性高院に葬ってあったが、日観寺建立後この瀬部の地に改葬しました。現在この土地（瀬部小学校）の北側は「寺浦」と呼ばれております。

瀬部の阿部様お構いなし～

阿部氏は当地方においては権勢並ぶ者もない大地頭であったため、人々は「瀬部の阿部さま、お構いなし」と畏敬したそうです。今でもこの諺をひいて猪突猛進する人を「さま、お構いなし」などと皮肉る言葉が残っております。